

CASE STUDY

# 研究を通じたブランド戦略 得意分野を生かして世界で認知拡大

## 藤田医科大学

基礎・臨床の二軸で培ってきた研究力を武器に海外での認知を高めようとしている藤田医科大学。まずは東アジア諸国との共同研究でアピールする。



副学長・医学部長 岩田 伸生

いわたな 伸生 ●1993年名古屋大学大学院修士、博士(医学)。同大学医学部付属病院、アメリカ国立衛生研究所客員研究員を経て、1998年藤田保健衛生大学(現藤田医科大学)医学部に着任。2011年研究支援推進センター長、2012年同大学病院副院長(兼任)、2015年医学部長を歴任し、2016年から現職。専門は精神疾患の分子遺伝学。

### 基礎研究と臨床研究のシナジーを高める

本学の建学の理念「独創一理」は、その人独自の創造力で新たな時代を切り拓くという意味を持ちます。これを研究に当てはめると、自分たちが力を発揮できる分野で秀でるといふスタンスになります。この姿勢がTJH E世界大学ランキングの指標にうまくフィットしたことで、国内私立大学で最高位という結果になったのだと思います。

学園創設者藤田啓介が生化学の研究者であったことから本学には、私立の医科単科大学ながら、基礎研究を重んじる伝統があります。医学部設立と同時に併置された総合医科学研究所はその考えの表れです。

大規模となる大学病院を擁しています。基礎と臨床の両面で研究を進めやすい環境が整っている点は本学の大きな強みです。近年は基礎・臨床研究の相乗効果をさらに高めるため、双方の研究分野を意識的にそろえるようにしています。例えば、臨床で得意としていた「がん」の分野は基礎研究では手薄だったため、同分野の基礎研究者を集め、相互に知見を生かせるようにしました。逆に再生医療については基礎研究が先行していましたが、現在CPCを学内に整備しており、来年には臨床への応用を開始します。

これら注力分野は、学長や理事が集まる学園戦略会議で決定し、人・モノ・金を集中的に投資します。神経科学、免疫、ゲノムなど世界的に強みのある研究分野を打ち立てられているのは、トップダウンによる迅速な意思決定によるものと考えます。

### 国際共同研究で広める「FUJITA」ブランド

各研究者に向けた研究推進策として、2014年度から研究費の配分に競争的要素を取り入れていきます。科研費への応募数、研究発表数、国際連携の数などの評価基準を学内研究者に公開。全学の講座研究費の4割を競争枠として、評価ポイントに応じて再配分していきます。若手研究者のみが獲得できる枠も設けました。

また、診療に忙しい臨床研究者が少しでも研究をスムーズに進められるようにと、さまざまな研究支援をワンストップで行う「研究支援推進センター」を2012年に設立しました。URAやCRCを含むスタッフが約100人在籍

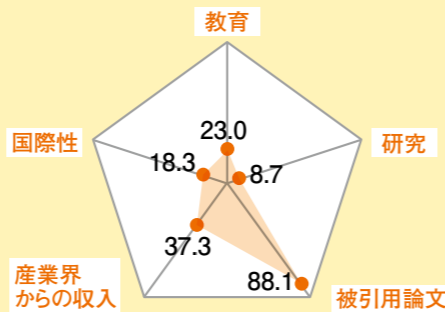
し、競争的資金への応募、知財管理、研究機器の使用などのサポートを一元管理しています。今後の課題は、海外でのプレゼンスの向上です。TJH E世界大学ランキングの結果において、被引用論文のスコアが高い割に、評判調査の比重が高い研究、教育のスコアが低かったというところは、優れた研究をしていても海外では「FUJITA」の名が十分に浸透していないことを意味します。本学は今、得意なゲノム分野で国際共同研究を推進しています。これは認知拡大の効果も期待できます。ゲノムでは、東アジア諸国、特に中国は、日本をはるかにしのぐ勢いで研究成果を挙げています。中国を含む成長著しい国々と手を組むことで、研究と注目度の両面において世界の中での本学の存在感を高めていきます。

\*1 CPC: Cell Processing Center. 再生医療用の細胞培養センター。  
\*2 CRC: Clinical Research Coordinator. 治験コーディネーター。



学生数/2810人 学部/医、医療科学  
大学院/医学、保健学  
▶THE世界大学ランキング2018/501-600位  
▶同アジア大学ランキング2018/=83位  
▶世界大学ランキング日本版2018/151+位

指標	スコア	前年度	順位	参考データ
総合	37.1-41.6	30.7-34.9	401-500位	ST比率/3.1
教育	23.0	24.2	601-800位	
研究	8.7	7.7	1001+位	留学生の割合/-
被引用論文	88.1	74.5	139位	
産業界からの収入	37.3	35.2	601-800位	女男比/55:45
国際性	18.3	17.3	1001+位	



### 取り組み体制

- ▶学長と学内理事が毎週「学園戦略会議」を行い意思決定。トップダウンで実行
- ▶「研究支援推進センター」が研究者支援をワンストップで引き受ける

項目	取り組み
研究環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶国内最大規模の大学病院を併設し、臨床研究を展開</li> <li>▶総合医科学研究所では基礎科学、基礎医学、臨床医学との共同研究をプロジェクトで推進</li> <li>▶研究拠点「再生医療支援推進施設」を4月に組織するなど、新分野に積極的に進出</li> </ul>
研究資金	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶研究支援推進センターのURAを含むスタッフが競争的資金等の獲得を全面サポート</li> <li>▶産学連携推進センターにも専属URAを配置。企業資金の獲得強化をめざす</li> <li>▶臨床応用の期待が高い分野について投資の受け皿となるファンドの設置を検討中</li> </ul>
研究者	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶クロスアポイントメント制度を活用した国際共同研究</li> <li>▶若手研究者の育成施策として、2019年度、医学研究科に修士課程を設置準備中</li> <li>▶意欲的な若手研究者を外部から招き、研究環境を提供するプランを検討中</li> </ul>
論文の量と質	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶研究時間が不足しがちな臨床研究者を中心に、英訳や統計解析サービスを提供</li> <li>▶全学の講座研究費の4割をいったん大学でプールして、成果や姿勢に応じて再配分</li> <li>▶論文評価の基準からインパクトファクターを除外し、被引用数を重視。量より質へ</li> </ul>
研究の広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶東アジア諸国との共同研究などを通じ、海外での「FUJITA」の認知度を高める</li> <li>▶海外に向けては情報発信だけでなく、今後は広告戦略にも力を入れる</li> </ul>

## 注目! 研究者、施設、産学連携 再生医療に学園の総力を結集

藤田医科大学が今後の研究の3本柱としている「がん」「臨床ゲノム」「再生医療」のうち、近年体制の充実著しいのが再生医療だ。厚生労働省や国立研究開発法人で要職を務め、官学連携にも研究内容にも明るい松山晃文氏を教授として招く一方で、国内屈指の充実度を誇るCPCを設置。10月には製薬会社との共同開発契約を締結。2019年3月には組織がセンター化され、大学での基礎研究と病院での臨床実践をつなぐ中核となる。星長清隆藤田学園理事長・同学長は同センターに「世界から研究者を集めたい」と述べており、今後もさらなる発展が期待できる。

### 再生医療の推進体制

